

## 6. 事業スケジュール

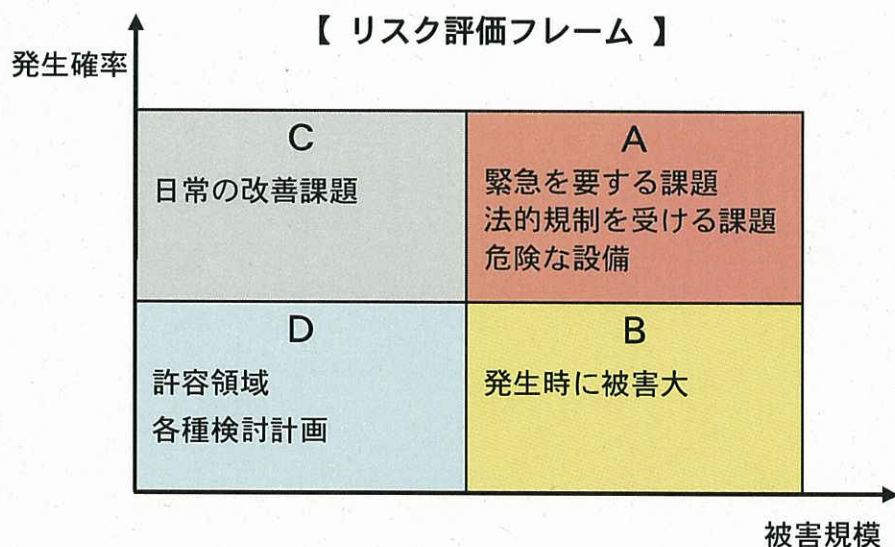
実施方策に基づき、事業スケジュールを検討します。

なお、実施すべき優先順位を検討するため、リスクアセスメントを本地域水道ビジョンでも利用し、事業計画への位置づけを図ります。

### 6-1. 優先順位の検討

断水や水質障害事故が発生した場合、予想される被害規模を考慮する必要があります。

そこで、次のようなリスク評価フレームを利用し、事業計画の優先順位の決定に利用します。



水道施設整備事業の順位を決める設定条件は、リスクアセスメントの評価範囲から、以下のとおりとします。

A：緊急を要する課題、法的規制を遵守するための施設整備、危険な設備の解消  
配水池容量の確保  
石綿セメント管等の老朽管の布設替え  
簡易水道の整備統合  
他に被害を及ぼす恐れのある施設、維持管理時に作業員に危険な施設の更新

B：水量的安定度及び水質的安全性を向上させる施設整備  
老朽化設備や老朽化構造物・配管類の更新

C：利用者サービスの充実、業務の効率化  
機能低下施設（ポンプ設備、浄水処理施設）の増強

D：その他

## 6-2. 事業スケジュール

リスクアセスメントの評価と事業実施の実現性を考慮し、次のような事業スケジュールを計画します。

表- 27 事業スケジュール

事業名	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	評価
<b>安心・安定した供給の確保</b>											
① 配水池整備	←-----→										A
② 耐震診断の実施と老朽化施設・設備の更新	←-----→										A
③ 計画的な管路の更新	←-----→										B
④ 簡易水道の整備統合	←-----→										A
<b>災害時の供給体制の確保</b>											
① 危機管理対策マニュアルの更新	←-----→										C
② 応急給水・応急復旧のための人員・資機材の確保	←-----→										C
<b>利用者サービスの充実</b>											
① 情報提供と意見の反映	←-----→										C
② 利用者の利便性向上	←-----→										C
③ サービスの均一化	←-----→										C
<b>効率的な事業経営の推進</b>											
① 業務の効率化	←-----→										C
② 技術、知識の維持・向上	←-----→										C
③ 健全な経営の維持	←-----→										C
<b>環境に配慮した事業の推進</b>											
① 資源の有効利用	←-----→										C
② 省エネルギー対策の検討	←-----→										C

## 7. おわりに

本地域水道ビジョンは、中長期プランとして策定を行い、計画期間は平成21年度から平成30年度までの10年間としましたが、この期間内に目標を達成できない事業・改善策は、平成31年度以降も継続して推進していきます。

本市の水道は、現在、施設の更新・改修の時期を迎えており、より具体的な施策目標を策定し、計画期間内の実現を目指す必要があります。

今後とも、職員一丸となり、常時・非常時にかかわらず、安全な水を安定して供給する水道事業を継続させ、更にレベルアップし、市民に信頼される水道事業の構築を目指します。